

天平の匠に挑む 古代の知恵 VS 現代の技術

Endeavors in Master Craftsmanship in the Tenpyō Era: Ancient Wisdom and Modern Technology



唐招提寺金堂 © 奈良県文化財保存事務所

名称	天平の匠に挑む—古代の知恵 VS 現代の技術
会期	2021年10月16日(土)～12月12日(日)
会場	竹中大工道具館 1F ホール
開館時間	9:30～16:30 (入館は16:00まで)
休館日	月曜日(祝日の場合は翌日)
入館料	一般700円、大高生・65歳以上の方500円、中学生以下無料 ※常設展観覧料を含む
主催	竹中大工道具館
特別協力	唐招提寺
協力	金沢工業大学、京都大学生存圏研究所材鑑調査室、奈良県文化財保存事務所、奈良文化財研究所、株式会社竹中工務店、凸版印刷株式会社、TBS
公式サイト	https://www.dougukan.jp/special_exhibition/tenpyo_kobe

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会期や休館・イベント情報が変更となる可能性があります。
最新の情報は公式サイトをご確認ください。

2020年12月「伝統建築工匠の技—木造建造物を受け継ぐための伝統技術」がユネスコ無形文化遺産に登録され、古くから継承してきた17分野の技術が世界に認められました。本展では遺産登録を記念して、保存修理工事において最新の科学技術を駆使して謎の解明に取り組む技術者の知恵に注目します。

古代の匠が千年以上もつ建築をどのように造ったのか、また建築を未来へ継承するために現代技術がどのように活かされたのか。本展では、1200年前の天平時代に建てられた国宝・唐招提寺金堂の平成大修理を通して、建築技術・彩色復原・木材などに焦点を当て、古代と現代の技術について対比的に紹介します。

天平文化と建築

日本建築史の黄金時代と呼ばれている天平文化。東大寺、薬師寺、興福寺、唐招提寺などの大伽藍が造営されました。この時代に建てられた多くの傑作を年表で紹介するほか、代表的な建築を模型で紹介します。



法起寺三重塔
二十分の一模型

ヒノキが千年持つのは本当か？

日本人は古くからヒノキを建築に愛用してきました。木肌が美しい上に、構造材としても十分な強度を発揮し、加工もしやすいという万能の木材です。さらに驚くべきことにヒノキは1,000年以上経っても強度を保つことができます。ヒノキが持つ特性を最新の科学技術で解き明かします。



唐招提寺金堂 創建当初の古材 8世紀

木造なのに倒れないのはなぜ？

一般的に木造は地震や台風に弱いというイメージがありますが、日本には千年を超える古代建築が多く残っています。さまざまな模型・CGを通じて、古代建築の木組みを紐解き、唐招提寺金堂の平成の構造補強について紹介します。



唐招提寺金堂 平成修理の構造補強

当初は鮮やかに彩られていた。

今日の唐招提寺金堂は長年の風雨にさらされ、古びた表情を残していますが、修理時に発見された彩色の痕から、扉や内部は荘厳のため鮮やかに彩られていたとが判明しました。最新の顔料分析と復原方法を、実物大模型を通してお伝えします。



唐招提寺金堂
身舎天井彩色復原模型

※イベントの日時・内容は変更になることがあります。
最新の情報は「天平の匠に挑む—古代の知恵 vs 現代の技術」展公式ウェブサイトにてご確認ください。

講演会

※本講演会は「天平の匠に挑む—古代の知恵 VS 現代の技術」展プレイベントです。

天平の匠から、令和の匠へ

天平時代の国宝建築・唐招提寺金堂。1998年から12年に及んだ平成の解体修理を間近で取材された唐招提寺の石田太一氏に、修理の全容および年輪年代測定での創建年代確定や扉彩色の発見、小屋組に導入された構造補強など企画展のトピックについて、また、古社寺の重要課題でもある技術の伝承についてお話しいたします。

日時 2021年10月10日(日) 13:30～15:00 (13:00開場)
場所 竹中大工道具館 1F ホール
講師 石田太一 (唐招提寺 執事長)
定員 70名
(事前申込制、応募者多数の場合は抽選)
参加費 無料 (別途入館料が必要)
申込締切 9月18日(土) 必着

講師 石田 太一 (いしだ たいち)
プロフィール 1967年奈良県生まれ。1973年10月6歳で得度(戒師:唐招提寺第81世長老・森本孝順和尚)。1990年3月京都教育大学教育学部数学科卒業。1995年から唐招提寺に勤務し、2021年より唐招提寺執事長を務める。1998年に始まった金堂平成大修理では、現場担当者として建物や仏像の解体、移動、組立の作業を間近で取材しつつ、各方面関係者との連絡調整役を果たした。



ウェブサイトまたは往復はがきに下記事項をご記入の上お申し込みください。

ウェブサイト

公式サイト (https://www.dougukan.jp/special_exhibition/tenpyo_kobe) 内よりお申し込みください。

はがき

往信用裏面 ①イベント名 ②参加者氏名(フリガナ) ③郵便番号・住所 ④電話番号 ⑤年齢
返信用表面 宛先に申込者の郵便番号、住所、氏名をご記入ください。
裏面は未記入のこと。

[申込み先] 〒651-0056 神戸市中央区熊内町7-5-1 竹中大工道具館イベント係

※ハガキ1通につき1名様までお申し込みいただけます。

※参加可否の詳細は締切日以降10日程度でご連絡いたします。

※ご記入いただいた情報は厳重に管理し、イベント以外の目的には使用いたしません。

貸出画像



1 | 唐招提寺金堂



2 | 法起寺三重塔
二十分の一模型



3 | 年輪読取器 (奈良文化財研究所蔵)



4 | 唐招提寺金堂 創建当初の古材 8世紀
(唐招提寺蔵)



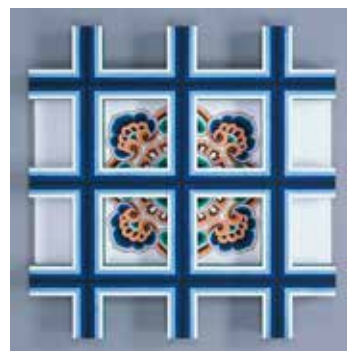
5 | 唐招提寺金堂 実物大組物模型
(唐招提寺蔵)



6 | 唐招提寺金堂 平成修理の構造補強



7 | 唐招提寺金堂 組物解体の様子



8 | 唐招提寺金堂
身舎天井彩色復原模型
(唐招提寺蔵)



9 | 唐招提寺金堂
扉宝相華彩色復原図
(唐招提寺蔵)



10 | 石田太一
(唐招提寺 執事長)

*1、3、6～9：© 奈良県文化財保存事務所

当館のご案内



日本で唯一の大工道具の博物館「竹中大工道具館」は、大工道具を収集・保存し、研究や展示を通じて後世に伝えていくことを目的に設立されました。

常設展は7つのコーナーに分かれており、唐招提寺金堂組物の実物大模型、五感に響くハンズオン展示などを通して大工道具の魅力をお伝えします。

また博物館そのものが「匠の技の数々を肌で感じてもらえる場」となっており、建物の各所には大工や左官、瓦師などによる伝統の職人技をちりばめました。

シンボリックで自己主張の強い建築ではなく、人と自然をやわらかくつなぐ存在としての「和」の建築を楽しんでいただければ幸いです。

アクセス



山陽新幹線「新神戸駅」中央改札口より徒歩約3分
 市営地下鉄「新神戸駅」北出口2より徒歩約3分
 シティ・ループ「12 新神戸駅前(2F)」下車徒歩約3分
 神戸市バス2系統・18系統「熊内6丁目」下車徒歩約2分

広報用画像

- 画像データ1～10 (JPEG) をご提供いたします。メールにてお申込みください。画像データをメールにて送信いたします。
- 画像をご使用の際は必ずご案内のクレジットをご表記いただき、申請の目的以外にご使用なさないでください。
- 掲載記事・番組内容について情報確認のためにゲラ刷り、原稿の段階で下記事務局までFAX送信ください。
- お手数ですが、掲載紙・誌、または録画媒体等を下記広報事務局あてに1部ご寄贈願います。

お問い合わせ

「天平の匠に挑むー古代の知恵VS現代の技術」展広報事務局（竹中大工道具館内）
〒651-0056 神戸市中央区熊内町7-5-1
TEL：078-242-0216 FAX：078-241-4713
E-mail：tenpyo@dougukan.jp

- 読者プレゼントとして本展図録5部または当館招待券ペア（2枚）5組を提供することができます。
- その他、撮影などの取材をご希望される場合は別途事務局までご連絡ください。